

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

安藤一夫 小林国二 小林善秋 高橋深
加瀬由紀子 近藤マリ子 近藤善信
印刷・(株)北越時報社

頂きますと御馳走様でした

翠巖龍弘

去る五月十九日、安善寺本堂で屠畜慰霊法要が厳修されました。大正時代から脈々と勤められてきており、今年は八十回目の法要でした。

長岡では昨年一年間で、牛・豚合わせて十二万余頭が屠殺されたそうです。私ども人間に美味しく高蛋白の肉を供給してくれるため、尊い生命が犠牲になっておるのです。関係者の方々も多くの屠畜に感謝し、慰霊に真心を込めて焼香されておりました。

私も法要の度に、今迄いただいた牛豚などに感謝し、尊いのちをいたたくに価する自分であつたかと反省し、どう生きるべきか考えさせられる日となっております。

牛豚に限らず、私どもの食する物総てに尊いいのちがあり、それらのいのちの犠牲の上で人間は生きていくことが出来るのです。

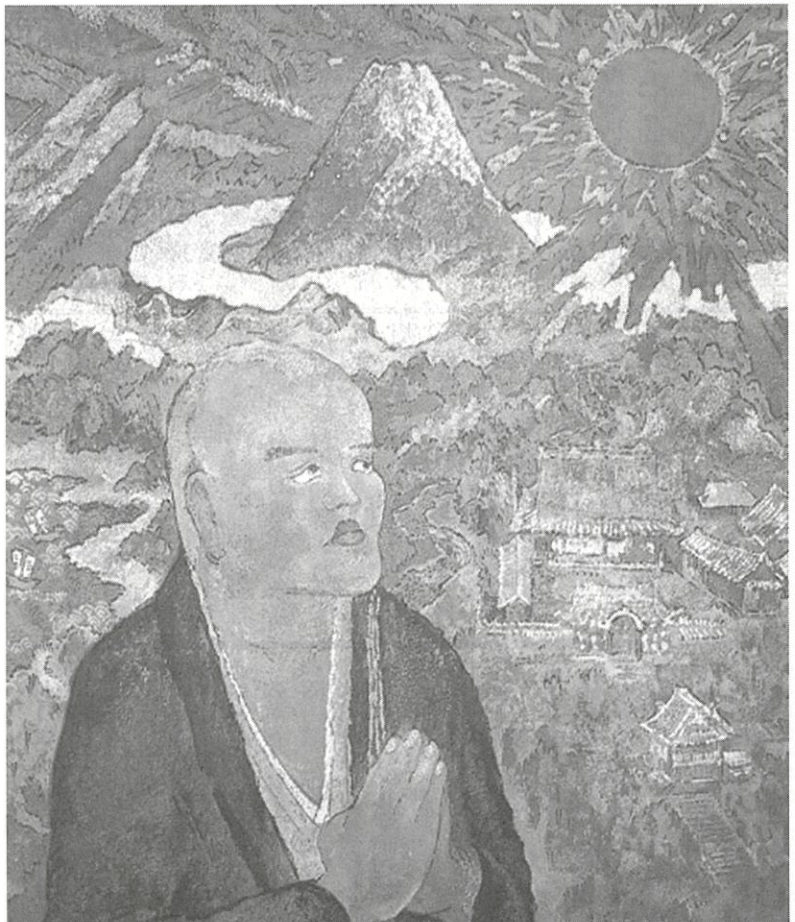
右下の写真は、高祖道元禪師七五〇回大遠忌奉修のポスターです。道元禪師は、二十八歳で中国から帰京された後、五十四歳の生涯を閉じられるまで、『正法眼蔵』をはじめ、多くの教えを著作されましたが、三十八歳の時、典座(修行僧の食事司る役)の仕事の内容と心構えを示した『典座教訓』を撰述されました。

食事を作る人は、米一粒、野菜に至るまで、それぞれのいのちの尊さを観じ、粗末にすることなく、それぞれの材

料を生かしきり、真心を込め、美味しい食事を提供しようという純粹な心で料理しなさいと、示されております。

また、四十七歳の時『赴粥飯法』を撰述され、僧堂内における食事作法、どのような心持ちで食事をするのかなどの食前・食後の唱えごとなどが示されており存じの「五観偈」として、「二つには功の多少を計り彼の来処を量る二つには己が徳行の全欠を付つて供に応ず三つには心を防ぎ過を離るることは貧等を宗とするは正に良業を事とするは形枯を療ぜんが為なり

なり



大本山永平寺様から配布されたポスターです。

五つには成道の為の故に
今此の食を受く」

行するため、貧・瞋・痴の三毒を
離れることに注意します。

教えられているのではない
でしょうか。

(第一に、私たちがいただく食物が
作られる迄に、天地の恵みをはじめ
どれだけ多々の人々の手がかかり、その
食物が自分の所に来る迄に多くの人の
手を経ているか考え、感謝します。

第四に、食事をする良い薬を飲
むのと同じで、体の枯渴を療する
ためです。

日本では食事の時、合掌
し「頂きます」「御馳走様で
した」と言う習慣がありま
す。典座教訓・赴粥飯法の
教えが、これらの言葉に集約
されているのではないでし
ょうか。各々の家庭で「頂き
ます、御馳走様でした」を、
心を込めて言い、伝承して
いききたいものです。

第二に、食事をいただくにふさわし
い生活をしているか、欠けていると
ころがないか反省し、供養怠りませ
ず、

第五に、食事することは、自
分の人格を完成させるためである
ことを思い頂きます

と、示されております。

第三に、食事をするのは迷いの心
をなくし、過ちを犯さないように修

食事を通していのちの尊
さを観じ、それ故に自身が
どう生きるかを考えるよう

と、示されております。

をなくし、過ちを犯さないように修

と、示されております。

と、示されております。

ご家族の皆さままでご覧ください

「はい」という素直な心。

近隣寺院紹介

萬融山昌福寺 長岡市四郎丸

歴史的に有名な墓があることで知られています。

昌福寺住職 鷺見 芳正

資料によると「慶長十年徳川家康によって、一国一城と山城廃止令状が出され、これによって平城が各地に築かれた。蔵王堂城主、堀直奇も長岡の地を目をつけた。城郭の縄張りの際、この地(現厚生会館付近)にあった昌福寺と赤城社を赤川(現柿川)の向こう四郎丸村(現位置)へ移転させた」とされている。

昌福寺本尊、聖観世音菩薩(行基作)本尊は、釈迦牟尼佛であったが、戦災で焼失し、現在は秘佛であった聖観世音菩薩が本尊となる。開基、堀丹後守直奇(凌雲院殿鉄団宗大居士)。開山、耕山紹堯大和尚(龍穩院五世)。本寺、長岡市乙吉町、龍穩院。

昌福寺は、戊辰戦争の際、西軍に放火されたが、村民の協力により焼失を免れ、長岡

軍の野戦病院となり、総督河井継之助負傷の際に、ここに収容されたことは有名である。

明治二年五月一日、焼けた残っていた昌福寺の本堂を借りて学校とした。この時つけた名前が「国漢学校」である。その後、三根山藩からの救援米「米百俵」により、明治三年六月十五日、坂之上町に校舎が建てられた。

時は移り、昭和二十年八月一日、長岡大空襲において昌福寺も直撃弾を受け、堂宇ごとごとく焼失した。この時、十九世赤柴定一方丈は病氣にて、一家三人は安善寺様に宿を借り、焼け跡の片づけに四郎丸へ通ったそうである。「大変お世話になった」と、亡き祖母も語っておりました。

で、境内地を売り、二十世鷺見透玄方丈のとき、現本堂が再建された。二十一世鷺見大應方丈のとき、本堂内部改装、無縁墓供養塔建立、二十二世鷺見芳正(現住職)庫裡改修がなされた。



絵・禅道泰巖

最後に、昌福寺墓地内にある歴史的な墓を紹介します。「勅特賜前妙徳院殿廣次上人の墓」。栖吉城主、本庄慶俊の娘。戦乱の波にさらされて蔵王城主、堀直奇に養育された。その後、徳川二

代将軍秀忠の側室となり、寛永九年、天海僧正により尼となる。遺言により昌福寺に墓が建てられた。

『鶴殿団次郎(春風)の墓』。文海院殿義倫英忠居士。藩書調所で数学の教授となる。門下生に伊東祐享(日清戦争時の連合艦隊司令長官)がおり、恩師を慕って昌福寺に墓参し、その後、楓の木が贈られ、今も立派に育っている。また、悠久山に顕彰碑も建っている。

『戦災殉難者の墓』。長岡大空襲により、市街地の八十パーセントが焼き尽くされ、千四百六十余名の人が亡くなった。その時の犠牲者で身元不明の遺骨が大八車で運ばれて埋葬された。有志や市民の浄財により、昭和二十二年九月に現在の墓が建立された。毎年八月一日、長岡市仏教会の皆さまにより早朝墓前法要が営まれている。

これらの墓は、歴史愛好家をはじめ、小中学生がよく訪れ、いろいろ調べていく。今年は特に、テレビ局や新聞社も多く取材に訪れた。

御礼申し上げます

瓶・缶などは三分の一に、供花・すすきなどは半分になりました。

季刊十四号で盆花の飾りに、瓶・缶などのお持込みはご遠慮くださるようお願いいたしました。おかげさまで例年の三分の一に、また、すすき・供物なども半分に減りました。十六日には、それぞれ自分の墓の後片づけに來られた方も多数見られ、十七日の墓地の片づけは例年よりも二時間早く終了することが出来ました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。

大遠忌団参加者募集

道元禪師様七百五十回忌
曹洞宗では、大本山永平寺御開山道元禪師・二祖孤雲禪師、大本山總持寺御開山瑩山禪師・二祖峩山禪師の方々は、五十年毎に報恩大法要が奉修されることになっております。明年は道元禪師様七百五十回大遠忌の年です。五十年に一度の大法要です。ぜひ多くの檀信徒の方々からお参りいただきたく、別紙の如く団参を計画いたしました。皆様方のご参加申込みをお待ちしております。

上を敬い、下を憐れむ

長岡良寛の会幹事 築井 仁

くも喝破された「散聖」の一語に尽きると思っている。

田中先生は「散聖」とは、忽然として現れ、これという程の足跡も残さず忽然として去りゆきながら、この一固の脱時代人によって、仏教・宗門が真実の活力を蘇らし、本来の生命を支えらるるのである」とされ、散聖の系譜として、穴風外、乞食桃水、良寛さんを挙げておられる。いずれも権門富門には近付かず、教団からの再出家など僧らしからぬ僧として、民衆と共に苦しみ涙する大悲に徹された方々である。(以上)

◆夢で語った良寛さん
笑われるでしょうが、二十数年前の原稿を書いていた時、朝夢で良寛さんとお会いできました。不思議な体験でした。良寛さんは、「汝、寺住にして何故に本山礼、提唱、法要を断るや」という書状を示し「これにて、吾、己を引導す、即ち普化なり、爾後吾不住、優游たり」と語られました。普化への思いを詠んだお歌も二つ示されたのですが、夢の初めから記しているう

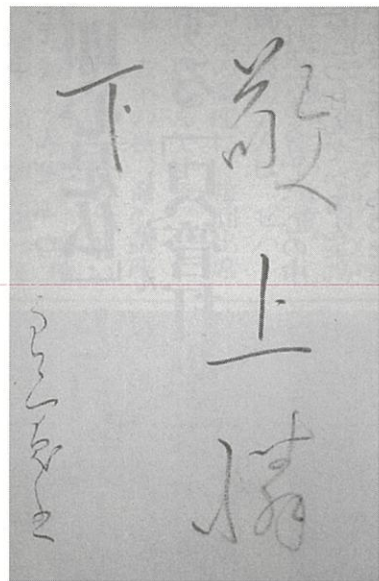
◆良寛さんは「散聖」
そろそろ「良寛をどう思ふか」と質されたそうです。私は二十数年前「良寛さんは「散聖」と考え、確信を深めております。近藤敬四郎さんの命により良寛さんについて一文を書いた時からです。引用します。
“良寛”の宗教的位置付けは、田中忠雄先生がいみじ

ちに思い出せなくなり、今なお残念です。

散聖の読みは田中先生は“さんじょう”、大漢和と広辞苑には“さいせい”とありますが、私は“ちりひじり”がピッタリと感じます。

◆北川良寛に一言

会誌のコピーを北川省一先生に届けました。先生の良寛観が「封建的身分制社会にあって、疎外差別された人々を救援せねばならぬ」という先駆的的使命を自らに課し・彼は宗門内部の腐敗墮落を内部から告発してやめなかつた。・帰郷後の彼に、体制としての曹洞宗寺院はどこも軒先を貸してくれなかつた(要旨)だったからです。良寛会員にも「良寛ひい



き」の故、北川同感者も多く、良寛さんを認めた国仙様を褒め、良寛さんを認めなかつた玄透即中様を難する傾向があり、残念だったからです。

人が生きることが、穀物や動物の生命を奪うことで、生きることで自体が罪と言え、生かす側面をもつのです。問題は矛盾、非条理、無情をどのように超え、位置付けて生きるかです。こうした人間の集団社会は、教団をも含め、理念どうりに動かないのが当然です。常に矛盾を抱えざるを得ません。その矛盾への対応如何により発展、混乱、衰退などが生ずるのです。また、歴史上の事件や人間の尺度からではなくその時代状況を十分に踏まえるべき等々と思

つていたからでした。

◆夢で語った良寛さん

良寛さんの出家、それも「教団からの再出家」は、良寛さんが己の本性を命懸けで究め盡しての選択と思っ

ています。皆さま、良寛さんが改革派の将として、こと荒げる姿を想像できますか。良寛さんは、すべてを因縁と「明らかめ、諦め」られたと思います。一時の宗門批判も後には無く、全てに感謝の日々とお見受けします。あきらめの徹底、更に底破と拝察するものです。

求道が旨の教団社会の優れた点は、名もない人々すらも学び取り、真実の活力を蘇生する点です。二十数年前、県曹洞宗青年会は良寛百五十回忌を行いました。私はそこに「散聖敬仰」の原点回帰運動の精神を観、敬信を新たにしたのでした。

現ご住職は当時、青年会の初代事務局長でした。懐かしい思い出です。

写真の遺墨は正法眼蔵のお言葉「上を敬い下を憐れむ」です。伸びやかな筆に心とませて頂いております。

お知らせ

第三十八回全日本仏教徒会議新潟大会が、長岡で左記により開催されます。ぜひご参加ください。

第一日「分科会」無料
日時 十月十日(水)
午後四時～六時

会場 長岡グランドホテル
●第一分科会 「いのち」
《生命倫理と仏教》
講師 田中雅博師

●第二分科会 「教育」
《自己の生命をみつめ感謝する心と大志をはぐくむ子どもを育てよ》
講師 押谷由夫師

●第三分科会 「環境」
《心の環境》
講師 北澤幹男師

第二日「記念式典・記念講演」
日時 十月十一日(木)
午後一時～四時

会場 長岡市立劇場
参加費 千五百円
(安善寺にチケットあります)

●記念講演講師 豊原大成師

※関連行事
命僧墨跡展
日時 十月九日(火)～十一日(木)

会場 長岡市厚生会館小ホール

全国仏教徒大会記念
「良寛さんと信仰の書」展
日時 十月十日(水)～十四日(日)

会場 長岡商工会議所美術ホール

仏の心で生きることが「即心是仏」と自覚し、ただひたすらに坐禅する「只管打坐」。

夏号に続いて、第二部の座談会です。

曹洞宗は坐禅の宗教です。お釈迦さまから、歴代の祖師に伝えられてきた、坐禅の中にある仏の心を修行します。

そのためには、坐禅の姿と心で生きることが仏である(即心是仏)という自覚のために、ただひたすらに坐禅する(只管打坐)ことです。

遠方に仏を求めるのではなく、その心そのまま仏であることを体得する。これが曹洞宗の修行であり、信仰の基本です。

出席者

「安善寺・坐禅の会」メンバーの中から九名がお集まりくださいました。
阿部昭次、今泉ナミ子、片桐禄郎、坂口恵之、田村美



知子、築井仁、広島猛、丸山巳子二、渡辺範子、堂長・翠巖龍弘

(アイウエオ順)

悟る、つて何だろう

阿部 悟りの世界の難しさを感じますね。悟りつて何だろうと思いますね。やっとう年あたり「あー、そうか」と思ったのは、仏である私

と、凡人である私と、心の中には二つ住んでいるんだ。で、あるときは仏、あるときは凡人、最後まで悟れないのが人間なんだ、そう思うようになりました。坐っていると、いろんなことが去来しますよ。去来することは、そのまま去来させた方がいい、それが凡人の私なんだ、それを楽しむ心境に変わりました。そしたら、



とても楽になりましたね。

「無」とか「空」とか、それに拘っている時期もありましたけどね。いろんなものが浮かんできます。若いころのことと、いい女のこと(笑)、あのときは癪に障ったな、とかね。

築井 阿部さんが悟りとは言い出すと、大変なんだけどね。

阿部 皆さん、そういう觀念に引きずられて、坐禅に抵抗感を感じられると思うん

だけど、私は「無」になんかなれませんか(笑)。なれないことがすばらしい人間だな、中にすばらしい仏さまを持つているんだな、それでいいじゃないでしょうかね。

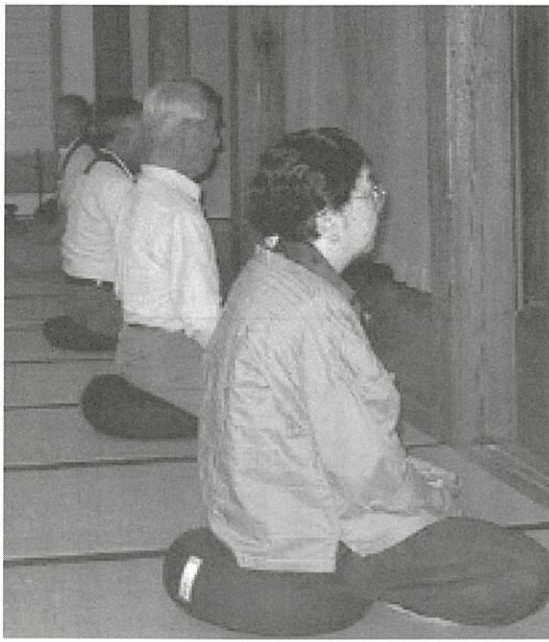
築井 私たち凡人は、ともすると人の悪いところを観て共鳴してしまうのですが、ハッと思ったのは、修行を積んだ人は、人の善いところを観て共鳴し、修羅の波を静めていくのではないかと、と思います。

和尚 私も子供の頃から、坐禅は、否応なしに先代から教わってきましたが、「俺



は坐禅しているぞ」という気が負いがないのが、安善寺の坐禅会の伝統ではないかと思えますね。みなさんの坐禅を見ていると、らくらくと坐っている感じです。まさに自然に打ち解けて坐っている。「坐禅は安楽の法門なり」という言葉がありますけどね。安善寺の坐禅会は、安楽の法門に浸っているのではないかと(笑)と思いますね。悟りを開こうとか、ということではなく、その時間を楽しんで、まさに大きな懐に抱かれている姿だと思っっているんですよ。

「私がします」という奉仕の心。



阿部 先代の方丈様が、私が人生の転機を迎えたとき、「阿部さんね、雀を見てごらん。あんな小さな体でも、自分の自己責任で餌を拾って生きていくではないか。お前はこんなでかい体をしてるんだから、餌は自分で拾えるだろう」と言われまして。そのご縁で、ご授戒を受け、平成二年の私の誕生日に得度式をしていただきました。この坐禅会というのは、私の人生経験の後半で非常に大きな意義を持ちましたよ。そして最後には「本来無一物」ですから、私はこの言葉が好きですね。

田村 坐禅堂では、文殊菩薩さまの元で時間を共有させていただいて、感謝と懺悔の毎日です。観音様のように正しく、目元涼しく一生を送れたら、幸せだなあ、そういう生き方をしたいなあ、と思っています。

築井 田村さんは、去年、見事に剣道の段を取られたんですよ。宮本武蔵、無心の境地に入られたんですね(笑)

田村 電光石火の如くなりたいな、精進したいな、すぐ相手と共有できたらいいな、と思います。

今泉 いつも私は、心がこ



ろころと移り変わって、先代様に「お前は続くのか」といつも言われているように……。道元禅師様が「あるがまま」とおっしゃっておられますので、いつも「あるがまま」で転がっております(笑)

渡辺 参加して二か月過ぎで、坐禅というのは「空」になるのかなと思っていたのに、雀の鳴き声は聞こえるわ、足が痛くなると切なくて出すのですが、心を和ませていただけるこの雰囲気が好きで、週に一回ずつが幸せだと思っています。

和尚 渡辺さんは、ビハラの命の講座に、毎回出席されているんですよ。

渡辺 去年の秋、命の講座で、「命は誰のもの」という話があったんです。年越しの間中、命、命と思って



いたんですよ。二月に入つて、方丈様の講座を聞いて「あ、そうだ、そうだ」と思ってもみなかったことを感じさせていただき、ありがたいと思っています。

只管打坐 ただただ坐る、心も坐る。

—— 拝見していると、坐禅会の皆さんは、姿勢がいいですね。きちっといらっしやる。

和尚 自分の信念をしつかり持っている人は、姿勢がいいと思いますね。それと、長生きしている人は、やっぱり姿勢がいい。

阿部 長生きの秘訣ってのは、信念でなくて、わがままですって(爆笑)。

和尚 信念というのは、わがままということ(笑)。百歳以上の長生きされている人を統計にとつたら、血液型はB型でがんこ、言い方を変えれば信念がある(笑)。

阿部 朝、坐禅から帰りますと近所の方から、「どちらへ」と聞かれると、朝帰りから、「安善寺で坐禅を……」と答えると、ほーっ、という顔をされる(笑)。みんなが頭で坐禅を考えているのではないかと思えます。

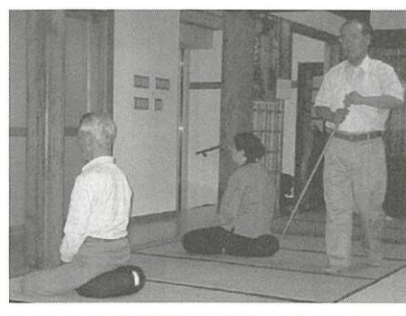
片桐 昔は、坐禅しているというと、変わり者に見られた(笑)。私は、坐禅に寄せていただいて、本尊様にお参りし、古い佇まいの伽藍に坐りますね。この雰囲気は何物にも代え難いと思いますね。

和尚 坐禅は、こうあらねばならないというものはなくて、「只管打坐」、ただただ坐るのが肝心です。坐ることが仏の姿です。自分を投げ出して坐ることで

めるものではなく、二次効果として、何かがあるのはいいけど、ただ坐った時点で安楽であればいい、それでいいと思います。(おわり)

一筆啓上

坐禅は、精神力とか、集中力とか、忍耐力とか、内臓の健康にいいとか、よくいいます。けど、坐禅の本当の目的は、坐ることで心を落ち着けて人間らしい生き方を静かに考える、ことですよ。まずは、私も坐ってみようと思いました。



す。坐ったとき、ゆったりとする、安楽の法門ですね。その時間をもてるだけいいと思いますよ。効果を求

読者からの便り

闘牛 利春号物語

長岡市●高橋利春

闘牛。日本の闘牛は一トン前後の、雄牛と雄牛との決闘です。その越後の闘牛、池谷場所(七月二十二日)で、我が「利春号」が横綱を張り、三十九番中三十八番の取組み。相手は「繁蔵」。壮絶な戦いを行い、約二千人の観客より、歓声と拍手をもらっておりです。その越後闘牛を紹介します。

二十村郷は、昔は山間僻地で、冬になると四メートルもの雪が積もったところで、田中角栄代議士によって、明かりが灯された所だ。

この山郷の誇りは牛の角突きであり、泳ぐ宝石といわれる優美な錦鯉の養殖でもある。

二十村郷の四季の移ろいは実に鮮やかだ。一年の半分近くを豪雪に閉ざされ、春は爆発的にやってくる。ブナの新緑と山菜。そして、短い夏

と秋が過ぎて、また冬がやってくるのだ。

この郷の棚田、田の水面に映る月、背景の心和む山郷。そんな山郷に越後の牛の角突きは息づいている。

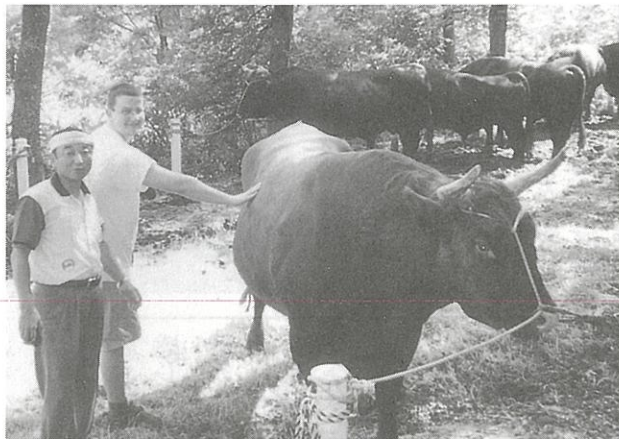
そして、昔、闘牛場は各集落の鎮守の森にあり、祭礼などで闘牛が行なわれ、神事として、位置づけられていた。やがてそれが、越後闘牛としてまとめられ、小千谷の小栗山、山古志の池谷と虫亀で、五月から十一月まで行なわれる。また、山古志村竹沢と種芋原の祭礼でも行なわれる。

闘牛の開催日になると、緊張がみなぎるのか、牛がポオー、ポオーと吼える。連れ出される牛は意気揚々と、残された牛は自分も連れて行けと、なお大きくポオー、ポオーと吼える。

闘牛会場は、八十頭もの牛が杉の木陰に一頭つつ繋がる、その様は壮観だ。正午前、土俵に神酒と塩でお祓いして、一番牛の入場となる。

闘う牛の本能として、角と角をぶつけるが、子ども牛の角突きは、かわいらしさに

笑い拍手が会場を包む。午後三時を過ぎると、牛も大人になり闘いも激しく、頭と頭のぶつかる音、角と角のしゃぐ音、にぶく重くグアキ、グアキと軋む音、目と耳からの二重奏だ。四時過ぎからは、閑脇、大関、そして横綱の登場だ。からだも大きく一トン級だ。この取組みは、大会の五日前に、取組み審議委員会、ワリが組まれる。いよいよ終盤「利春号」の登場だ。お神酒が抜かれ、利春号の



背にかけ、残りを私と勢子たちとラッパ呑み。我が牛の勝利と怪我のないようにだ。私は引き綱を持ち入場。入場門から「ヨシター!」の掛け声とともに威勢よく土俵に入る。場内放送が利春号を紹介している。土俵を半周して、観客に牛を披露する。「イヨッ! 利春号頑張れ!」利春号は黙って、相手牛を睨んでいる。相手は木箆の「繁蔵」、相手にとって不足はない。両雄引き綱をとり、勢子が鼻毛(鼻繩)をひき、頭を合わせ、鼻毛を抜いて、威勢よく高く投げ上げる。闘いだ。両雄ともまばたきもせず、相手を睨み威嚇している。「どうだ、俺はこんな大きないんだ。角も強いぞ。向かってくるか」と嚇かす。突然、目にも止まらぬ早さでぶつかり合った。ね

りを踏むという技だ。一本角打、両角使い、片角押し、しゃぎあい。とにかく、利春号は角使いが激しい。グアキ、グアキ、角と角のかけ合いだ。昨年春一番では、「利春号」の角が五センチ飛んでしまい、次の「アイビク」戦では、相手の角を折って、返り血を浴びて勇壮に帰ってきたのだ。鉄砲突き、押し合い、勢子の声援で、勝負が最高潮に達したところ、大観衆の中から「利春号いいぞ!」、別の方から「取れ! 取れ!」「綱だ! 綱だ!」の声がかかる。両牛は、力と技の全てを出し切った。この瞬間に「分けてやれ」と、天の声がわきあがり、勢子長の右手がさつと上がる。勢子の綱掛けが、双方の手で合図しあい、一瞬のうちに巨木のような太い後ろ脚に綱をかける。勢子が十人位づつ、それぞれの綱に群がり引き離そうとする。なかなか離れない。どうにか荒れ狂う両牛

の角だけは離れた。らんらんと光り血走る目は、まだ相手に向かおうと睨みつけている。このときが一番危険だ。角で空中高く投げ上げられたり、突き飛ばされたりする。あばら骨を折ったり、鎖骨を折ったりするのは数知れない。闘いは終わった。私は鼻に綱をつけ、引き綱を持って高々と上げ場内引き廻し、綱を延ばして土俵を一周、観客の声援に手を挙げて応える。これが越牛の闘牛、牛の角突きだ。秋は九月二十三日、十月八日、十一月三日まで開催されます。行楽を兼ねて、一度観戦に来てください。

煮た豆ではあるまいし
長岡市●太刀川佑子
おばあちゃんが亡くなったから、七月六日で六か月が過ぎました。「光陰矢の如し」、こんな言葉をかみしめています。人の悪口は言わず、自分

で出せることは、黙ってやりぬく、おしゃれでおちゃめな人でした。

頼まれたことをやってあげると、「蟻が十匹」「何のこと?」「ありがとう」の意味でした。

九十五才の晩年まで、レジに立って、お客様と楽しく会話していました。



がんばり屋で信心深いおばあちゃんの後を引き継いで、朝夕のお参りをみんなで作るようになりました。「おばあちゃん、今日はいい天気だよ」「また、日が暮れましたよ」と、一日の出来事を語りかけています。主人の読経が朝の空気の中に、今日も新たな一日の

始まりを告げています。

「煮た豆ではあるまいし、がんばればきつと芽が出る」と、天国で言っていることでしょう。

死すことも 昼寝のつづき冬銀河

初七日の 雪しんと地を清む

供花 ひとひらこぼれ春陽さす

一つあき

亡母の居場所 春炬燵 夏蝶に

後追いされて墓標まで

安善寺様の思い出

新潟市●新保チ工

幼児のころから祖母に連れられ、安善寺様の行事参りが、とても大好きでした。特にお斎の精進料理が美味しく楽しみでした。

お盆に、早朝から、親と共に墓掃除、井戸水の枯れ音が、今懐かしく思います。

母からは、「家は雲洞庵様の洗濯宿だったんだよ」と聞かされていました。

二月の寒行で、二十名ほどの方々が、神田新町の雁木通りを声明されました。

休憩所であった我が家の接待を眺めていました。凍てつく夜の静けさ長岡。終戦後、疎開先での般若心経の勤行を朝晩聞き、暗記し身につきました。

長岡で退職と同時に、写経会に入会させて頂きました。

安善寺様、ご先祖様のお陰と毎日感謝の日々です。

『命の日』の制定を

長岡市●酒井如風

去る七月初旬、安善寺で法要をしていただいた際に、

方丈、近藤龍弘師の法話を拝聴して、感動いたしました。それは、長岡市内の食肉組合関係の百余人の人々が、毎年安善寺で屠殺された動物たちの供養をしているとのことでした。

この人々は、動物たちが命を捧げてくれるお陰で、商売させてもらっているのに感謝し、彼らの霊を供養しなければならぬと思っ

ています。初めてそれを聞いた私は、食肉業者の誠実さに感動す

ると同時に、これは食肉業者だけでなく、消費者全部が同じ気持ちを持つべきだと思います。

人間は生きるために、他の生物：植物、動物の命をいただいている。

それを当然の権利などと思わず、地上の万物の恩恵に感謝し、それらの諸霊の供養を忘れてはならないと思

いました。

これに関して、龍弘師は現在ある十四の国民の祝日に加えて、新しく『命の日』を制定することを提唱されました。

この日、全国民が、地上のすべての生物の命の尊厳を思い起こし、人間が彼らから受ける恩恵に感謝するとうい、文化国家日本に相応しい世界に類のない名案です。

私は、このご提唱を支持し、この稿を書きました。

『米百表』の精神が、長岡から全国に発信されたように、『命の日』の制定が、長岡の安善寺から発信され、実現するよう期待します。

檀信徒の皆さまのご協力を祈ります。 合掌

お別れ

平成十三年七月一日〜八月末

小松田章様 七月十一日寂
新潟市

青柳司郎様 七月十五日寂
長岡今朝白

米山清作様 八月九日寂
長岡市錦

本多ナツ様 八月九日寂
東京都町田市

井上良吉様 八月十五日寂
長岡市荻野

金子トキ様 八月十六日寂
長岡市神田町

ご冥福をお祈り申し上げます。



一番早く、年をとるものは何か。それは感謝の心です。

「お便り」をたくさんいただきました。ありがとうございます。掲載出来なかった方は改めてご紹介させていただきます。編集部

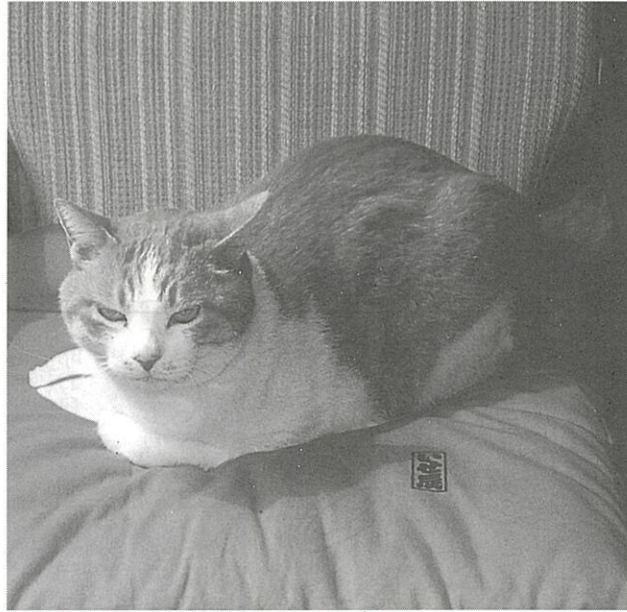
賑やかがいいな

ペコのひとりごと

本当に暑い夏でした。体力の消耗を防ぐのと、さくらが成長し吠える声が段々と怖そうになってきたこともあり、二階にいるのが安全とばかり閉じこもっていました。

幸い、夏休みに帰省したお兄ちゃん達の間接的クラーの恩恵と、私が下に行くのが厭な時は、お兄ちゃん達が食事を運んで来てくれるものですから、甘えて楽々としていました。

私は、トイレに関してはちつとも住職やお母さんの迷惑をかけなかったのですが、さくらはなかなか大変なようです。時々お母さんの「さくら、こんな処でしちゃ駄目でしょ！」と言う甲高い声が聞こえてきました。体は大きくても、まだまだ子供なんですね。いつもは静かなお寺も、



八月は賑やかでした。全員（七名と猫、犬）勢揃いでした。猫の手(?)も借りたような忙しさのなか、お母さんは洗濯、食事作りが増えても、お兄ちゃん、お姉ちゃん達の手が大助かりだったようです。人が集まると

はたで見えていても、暑さも忘れ何とも気持ちの良いものです。本山に修行中のお兄ちゃんも、お盆の間だけ帰ってきたのですが、本山という処はすごい処ですね。五ヶ月ぶりに会うお兄ちゃんとはとても大きく見えました。そ

んなお兄ちゃんを見る住職の目が何ともいとおしい者を見るようで、微笑ましく感じてしまいました。さくらも少し修行に行くようです。帰ってくる時、もう私の事をかまわなくなるのかも知れません。それも少し淋しくはあるのですが...

最近の日本は昔では考えられなかった凶悪事件が相次ぎ、本当に怖くなってきました。夜中など、誰も気づかずぐっすり眠っていても、さくらは大したものです。少しの物音も聞き逃さず吠えるのですから、本当に安心して眠れます。

立派に訓練を終えて、また、お寺の庭からさくらの元気に吠える声が聞こえるのを私も待っています。

編集 雑感

「人生に五計あり」といいます。生計。いかに生きてゆくか。世の中で、一番偉大な発見は、「人間は、自分の心構えを変えれば、人生を変えることができる」と分かったことだそうです。

▼家計。生きるためには経済力が必要です。お金が少なすぎては生計がおぼつかないし、多すぎれば金の奴隷になりやすい。「本当に幸せな人はお金を持っている人ではない。たくさん良い友だちを持つている人だ」。

▼身計。健康です。腹と腰がふくよかになると、アタマが悪くなるそうです。肺や心臓が圧迫され、脳に送られる血液が少なくなるからです。脳ほど酸素と栄養を消費する

る気管はないのですから、腹と腰をダイエット。血液の補給が充分になると、老人になっても切れ味、回転ともにOKというオツムでいれます。

お便り原稿用紙

季刊誌では、檀信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。同封の原稿用紙は、ファックスでも、郵便でも送れます。気軽に、お便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい/嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

▼「五計」は「輪廻」の形です。「死計」が定まっています。そのために今日をどう生きるかの「生計」があり、そのために「家計」「身計」があり、それが「老計」につながる。でも、寿命がのびたために「死計」を考えなくなったのではないか、気になるところです。■安藤

する挨拶が美しければ、かえる挨拶も美しい。

第十六号、新年号は平成十四年一月一日(火)発刊予定です。